

東和便り



第18号 学び合いの授業づくり②号

2015.9.14 東和中学校

9月11日（金）スーパーバイザー・フォローアップアドバイザー 「学び合いの授業づくり」公開授業・研究授業・研究協議会

本校では和歌山市教育研究所の研究支援を受けながら「中学校における『学び合いの授業づくり』の実践的研究」に取り組んでいます。

9月11日には第2回目として「学びの共同体」スーパーバイザーの馬場宏明先生と「きのくに学力定着フォローアップ」アドバイザーの丸山雅嗣先生を招へいし、3・4限には11教室で公開授業、午後からは研究授業（英語 岡田真教諭）と研究協議会を実施しました。他校からも30名の参加者（参観者）があり、生徒の学び合いを参観することで教師相互の学び合いをすることができ、有意義な1日となりました。

協同的な学びの哲学

- ・すべての子どもの学ぶ権利を保障する。
- ・すべての子どもを一人残らず学びに参加させる。
- ・教師全員が互いに学び合い、教育の専門家として成長する。
- ・どの生徒も一人にしない…子ども同士がつながる。
- ・どの教師も一人にしない…教師同士がつながる。同僚性が生まれる。

授業を「教える」から「学び取らせる」スタイルにする。協同的な学びの風景とは、

- ・仲間と知恵を出し合って考える。
- ・仲間の考えを自分の思考の道具にする。
- ・仲間と協働して互いに伸びていく。

発表



生徒相互の
学び合い



スーパー
バイザー



教師の
説明



発表ボード
で発表



教師の
グループ協議



教師相互
学び合い



話し合い
書く作業



話し合った
内容の
発表



「協同的な学びのルール」

- 全員がより確かな力をつけるために4人構成のグループ学習を入れる。
- グループになったら私語はしない。
- 机はしっかりくっつけて隙間をつくらない（机の隙間は心の隙間）。
- 最初、一人で考えることがもともと力がつく。
- しかし、分からない時はグループの人に「ここどうするの？」と訊くことができる。
- 訊かれたら相談に乗ること。話す時は、声のトーンを下げる。
- 立ち歩かない。自分のグループで話し合い、他のグループの人とは話さない。
- ただし、グループ内で分からなかったら、許可を得て、誰かが代表になって、他のグループに聞きに行ってもよい。聞いた話は、グループのみんなに伝える。
- 訊かれていないのに教えることは、その子の学びの邪魔をすることになるから、絶対しない。訊かれて初めて応えるようにする。
- やろうとしない子には「どうしたの？」「やらない？」と声かけをする。